

川島事業所、ELV 川島事業所で竣工式を実施 ～自動車リサイクル事業の機能強化を通じ、Car to Car 実現に貢献～

TRE ホールディングスグループの一員である当社は、川島事業所の設備更新、および ELV 川島事業所の研究開発棟の新設が完了したことから、2026 年 1 月 10 日（土）に竣工式を執り行いましたのでお知らせいたします。

1. 竣工式について

川島事業所では、大型シュレッダーをはじめとする各種設備の更新工事が完了しました。また、同敷地内に所在する ELV 川島事業所においても、当社と株式会社デンソーが共同で研究開発を行う「研究開発棟」が完成しました。これを受け、2026 年 1 月 10 日（土）に竣工式を執り行いました。当日は社内関係者をはじめ、関連企業やメディアなど約 50 名が参加。施工挨拶では、当社代表取締役社長 松岡直人より関係各位への感謝の意を表すると共に、リバーとしてさらなる資源循環の推進に向け、今後の安全と繁栄を祈願いたしました。



代表取締役社長 松岡よりご挨拶



集合写真

2. 更新・新設の概要

2. 1 川島事業所の設備更新

川島事業所では、設備の老朽化に伴う処理量の減少や修繕費の増加などを踏まえ、全社最適と競争力強化の観点から、50 年以上にわたって稼働してきた大型シュレッダーをはじめとする各種設備の更新工事を実施しました。

本更新では、大型シュレッダーの出力を 2,500 馬力から 2,000 馬力へ変更し、プレシュレッダーは 530 馬力から 700 馬力へと機能向上。前処理機能を強化し、大型シュレッダーの負荷を軽減することで、年間最大 60,000 トンにおよぶ大量の破碎処理に安定して対応すると共に、処理全体の電力効率を最適化しています。なお、今回導入した大型シュレッダー・プレシュレッダーは、TRE グループのエンジニアリング企業 富士車輛株が製造を手掛けており、グループ内連携により最適な設備設計を実現しています。



導入した富士車輛㈱製の大型シュレッダー

選別工程では従来の磁力選別に加え、新たに SGM magnetics 社製の PDM(※1)を導入しました。これにより、電気機器類や自動車ガラに含まれる銅材の選別を自動化し、省人化だけでなく選別精度の向上、さらに鉄製品の高品位化を実現します。また、選別過程で回収したシュレッダーダストやミックスメタルについては、それぞれ当社壬生事業所および那須事業所において高度選別・再資源化を行い、徹底した資源回収を推進します。

このほか、ダストヤード屋上には太陽光パネルを設置し、事業活動に必要な電力を一部賄うことで環境負荷を低減。加えて、所在エリアにおける水害リスクを鑑み、処理設備と関連する電気設備等については、想定される被害基準を上回る高所に設置することで、事業の継続性を担保しています。



PDM が導入された選別建屋



導入した太陽光パネル

川島事業所では、すでに一部試験運転を開始しており、操業開始は 2026 年2月を予定しています。同事業所では大幅に向上した破碎能力を活かし、段階的に処理数量を引き上げながら都市

部で発生する廃棄物処理に寄与し続けると共に、ELV 川島事業所との緊密な連携の下、使用済自動車の一貫処理機能の強化につなげ、良質な再生材の安定的な生産・供給に一層貢献していきます。

※1 Polishing Drum Magnet | ポリッシング磁気ドラム 家電や自動車などのモーターコアに含まれる銅材の選別に必要な手選別の工数を大幅に削減する機械

2. 2 ELV 川島事業所の研究開発棟の新設



研究開発棟

当社はデンソーを中心とする幹事機関 6 社と共に、2025 年 6 月に自動車産業における再生材利用拡大を目指す「BlueRebirth 協議会」を設立しました(※2)。同協議会は、使用済自動車の解体から再資源化までを自動化する「自動精緻解体システム」を起点に、動脈産業と静脈産業が融合したバリューチェーンの構築を通じて、自動車が再び自動車へと生まれ変わる「Car to Car」の実現に取り組んでいます。

同協議会において、リバーは日本トップクラスの自動車リサイクル事業者として解体に係る豊富な知見に基づき、自動精緻解体システムの開発に貢献を続けてきました。そしてこの度、BlueRebirth が目指す「自動精緻解体システム」の社会実装に向け、当社とデンソー社が共同で研究開発を行う「研究開発棟」を ELV 川島事業所内に新設しました。今後は研究開発棟内に実証設備の設置を予定しており、課題検証を進めることで動静脈融合のバリューチェーンの構築、Car to Car の実現につなげていきます。

※2 [2025 年 6 月 30 日「自動車産業における再生材利用の拡大を目指し、BlueRebirth 協議会を設立～自動車産業におけるサーキュラーエコノミー実現に貢献～」](#)

3. 今後の展開

川島事業所・ELV 川島事業所は、同敷地内において使用済自動車の引取りから、解体・破碎・選別まで一貫処理を行えることが大きな強みです。この度の設備更新、および研究開発棟の新設を通じ、良質な再生材の安定的な生産・供給を実現すると共に、自動車リサイクル事業における新たな成長軌道を描きながら、自動車が再び自動車へと生まれ変わる「Car to Car」の実現を目指します。

リバーはこれからも、TRE グループが掲げる「WX (Waste Transformation) 環境企業への挑戦」(※3) のもと、廃棄物の可能性を最大化する取り組みを継続し、高度循環型社会および脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※3 従来資源化の難しかった廃棄物・使用済製品等について、廃棄物処理の技術的・採算的課題を克服し、資源やエネルギーへと変換する取り組みであり、動脈・静脈の枠組みを超えた“共創”により高度循環型社会、脱炭素社会の実現を目指すもの

●事業所概要

■川島事業所

事業所	リバー株式会社 川島事業所
所在地	埼玉県比企郡川島町戸守 440 番地
更新設備	生産設備（大型シュレッダー、プレシュレッダー他）建屋、付帯設備
その他	太陽光パネル（敷設数：210枚、予想発電量：約99,000kWh／年）
取扱数量	60,000トン／年
稼働開始	2026年2月
投資額	51億円

■ELV 川島事業所

事業所	リバー株式会社 ELV 川島事業所（埼玉県比企郡川島町戸守 440 番地）
所在地	埼玉県比企郡川島町戸守 440 番地
施設名	研究開発棟
概要	自動精緻解体システムの社会実装に向けた研究開発
稼働開始	2026年度中
投資額	3億円

以上

＜本リリースに関する問い合わせ先＞

リバー株式会社 経営企画部広報課

連絡先： 03-5204-1891 e-mail:kouhou@re-ver.co.jp